

幼児期の思い出の歌

—短期大学部幼児教育学科 2 年生へのアンケート調査—

渡 辺 優 子

新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科

Remembrance of Songs Past: Results of a Survey of 2nd -Year College Students Studying Child Education

Yuko Watanabe

NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY DEPARTMENT OF SOCIAL WELFARE AND PSYCHOLOGY

キーワード

幼稚園・保育園・思い出の歌・幼児期健忘

Key words

nursery school, remembrance of songs, childhood amnesia

I はじめに

現代の幼児は、生活の中で音楽に触れる機会が多々あり、いろいろな機会をとらえて歌を覚え楽しんでいる。筆者がS幼稚園保護者に行った調査では6割以上の幼児が家庭で良く歌うとの回答を得ている。^{1) 2)}

幼児の歌唱については1970年代から各種の研究がなされてきた。どのような歌が歌えるのか、歌唱における音程感覚、わらべうた、音域の問題などである。また、1990年代には発達観点より音楽的認知や音楽的行動についての研究がなされた。^{3) 4)}

しかし、幼児期の歌の記憶についての研究はほとんどないのが現状である。幼児期の歌の記憶の特徴を解明するために、保育者を目指す学生が幼児期にどのような歌をどのように覚えたのかについて調査を行うこととした。それによって得られた園生活と結びついた歌についての知見を、保育者養成に、ひいては幼児の音楽教育に生かすことができるのではないかと考えた。

II 調査の概要

1. 調査方法：アンケート調査
2. 調査日：平成21年5月22日（金）、5月27日（水）
3. 対象：S大学短期大学部幼児教育学科2年生

2年生とした理由は、入学後1年間の保育者養成としての全般的な学習の中で、各自の幼児期について考える機会があり、歌の記憶を呼び起こす可能性が高いと考えたからである。

調査は筆者の担当科目「音楽Ⅲ」の授業時間に行った。選択者107名中回答数は106名（99.1%）であった。

4. 設問

- 1) 出身園について、幼稚園出身か保育園出身か、あるいは両方へ通園したかを尋ねた。
- 2) 幼稚園・保育園時代に歌った歌について曲名と場所や手段について尋ねた。
- 3) 幼稚園や保育園の生活について「1. 楽しくなかった」「2. あまり楽しくなかった」

「3.普通」「4.楽しかった」「5.とても楽しかった」「6.その他」の6件法で問い、その理由も尋ねた。

5. 分析方法

統計ソフトはEXCEL統計Ver. 6.0を使用して次の検定を行った。

1) 出身園（幼稚園・保育園）と歌の数の関係について、母平均の差の検定を行った。

2) 「園生活の楽しさ」と「歌の数」との関連と、「園生活の楽しさ」と「どこで歌を覚えたか」との関連についてカイ2乗検定を行った。

6. 倫理的配慮

無記名とし、男子学生が少数であることから、性別は問わないこととした。研究のための調査であり、個人情報守られることを口頭で伝えた。

Ⅲ 結果

1. 幼稚園・保育園時代に覚えた歌の数

歌の数について、最大値6、最小値は0であった。全体の平均は2.27、S.Dは1.42であった。幼稚園出身者30名については、平均2.2、S.Dは1.30であり、保育園出身者64名については平均2.23、S.Dは1.45であった。また、幼稚園と保育園両方に通った者12名については平均2.67、S.Dは1.42であった。幼稚園出身者と保育園出身者の歌の数について、母平均の差の検定を行ったが、 $t=0.11$ 、 $p=0.91$ で有意差はなかった。

2. 幼稚園や保育園の生活の楽しさと歌の数

園生活の楽しさについては、「1.楽しくなかった」は回答なし、「4.楽しかった」

「5.とても楽しかった」と回答する者が78名で73.6%、「2.あまり楽しくなかった」「3.普通」「4.その他」を併せて28名26.4%であった。幼稚園・保育園時代を肯定的にイメージする幼児教育学科の学生の傾向が表れている結果となった（図1）。

次に、園生活の楽しさと歌の数の関係について、「楽しかった・とても楽しかった」グループと、「あまり楽しくなかった・普通・その他」グループを比べてみた（表1）。「普通」「その他」を「あまり楽しくなかった」と同じグループにしたのは、6.で触れている通り、理由が「楽しかった」「とても楽しかった」グループと明らかに違いがあり、幼児教育学科学生の一般的なイメージと違いがあるからである。「とても楽しかった・楽しかった」グループの歌の数は平均：2.41、S.D：1.38であった。「あまり楽しくなかった・普通・その他」グループの歌の数は平均：1.9 S.D：1.47であった。2つのグループについて、カイ2乗検定を行ったところ、 $t=$

図1 園生活が楽しかったかどうか n=106

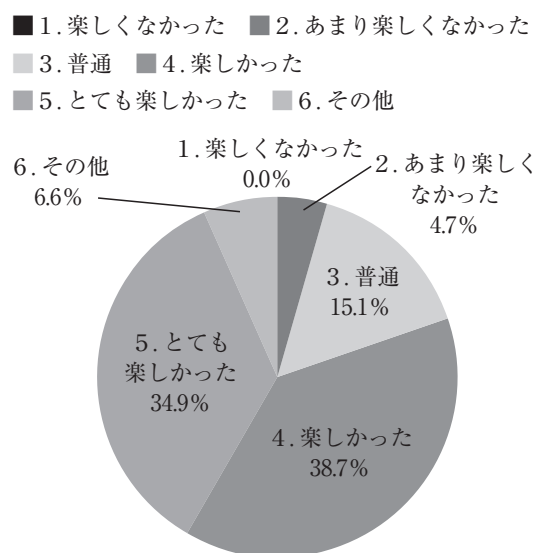


表1 どこで歌を覚えたか（回答数 n=241）

	園の歌	TV	不明・その他	歌の数の合計
園生活が普通・あまり楽しくなかった・その他	30	7	17	54
園生活が楽しかった・とても楽しかった	127	28	32	187
合計	157	35	49	241

7.31 $p = 0.29$ であった。「その他」回答者には記憶にないとの回答が多いので、「とても楽しかった・楽しかった」回答者の方がやや歌の数が多いが、統計的には差は少ない。

3. 歌をどこで覚えたか

歌の数は全体で241であった。園で覚えた歌は157で65.1%、テレビ・ビデオ・CDなどで覚えた歌は35で14.5%、その他・不明は49で20.3%であった（図2）。

園の歌を歌われる場面などを考慮して分類したところ、卒園式は57で36.3%、その他園行事は25で15.9%、生活の歌23で14.6%、その他の園の歌は43で27.4%、園のTVが9で5.7%であった（図3）。

図2 どこで歌を覚えたか（全体） $n = 241$

■園の歌 ■TV ■不明・その他

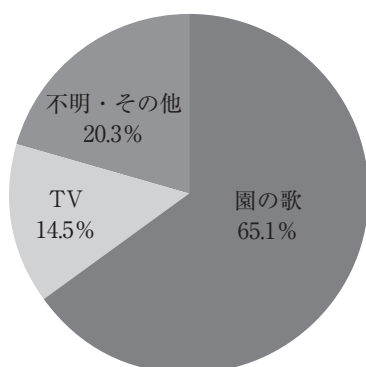
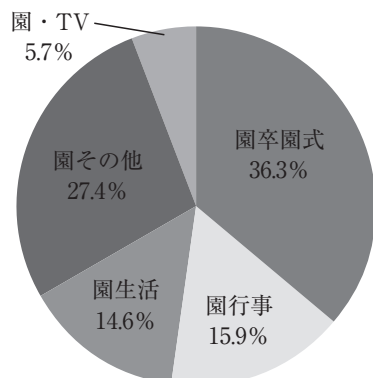


図3 園の歌内訳（全体） $n = 157$



4. 「園生活の楽しさ」と「どこで歌を覚えた」の関係

「園生活がとても楽しかった・楽しかった」グループと「あまり楽しくなかった・普通・その他」グループを、園で覚えた歌の数と、テレビやその他で覚えた歌の数について比べてみた。「園生活がとても楽しかった・楽しかった」グループは園で覚えた歌が127で67.9%、TVが28で15%、不明が32で17.1%であった。「あまり楽しくなかった・普通・その他」グループは園の歌が30で55.6%、TVが7、13.0%、不明・その他は17で31.5%であった。両グループについて、園で覚えた歌とその他で覚えた歌についてカイ2乗検定を行ったところ、 $t = 5.35$ $p = 0.07$ となった。「楽しかった・とても楽しかった」グループのほうが、園で覚えた歌の割合がやや高く、その他・不明と回答があった歌の割合がやや低かった（図4、図5）。

図4 どこで歌を覚えたか
（園生活が楽しかった、とても楽しかった）
 $n = 78$

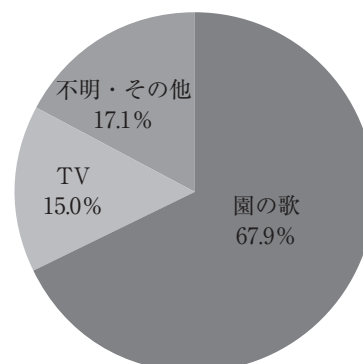
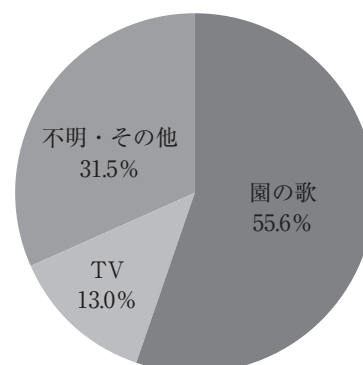


図5 どこで歌を覚えたか（園生活があまり楽しくなかった・普通・その他） $n = 28$



5. 季節や用途による歌の分類

幼稚園や保育園では季節や行事、または種々の用途別の歌のレパートリーがある。テレビの歌でも季節性を反映して放映されるものもある。新潟県内の幼稚園や保育園の例では、発表会や遊戯会は11月終わってから12月初め、ないしは、2月頃行われることが多く、運動会は6月か9月が多い。以上等を勘案して次の通り分類した。

A、11月～3月（遊戯会、発表会、クリスマス会、ひな祭り、卒園、冬の季節の歌）

B、4月～8月（入園、進級、春から夏の季節のうた、夏休みの行事）

C、9月～11月（秋の歌）

D、生活の歌（園で毎日のように歌う歌）

E、その他の歌

一曲について多くの回答がある場合もあるので、曲数と回答数を別に表記している。11月

から3月に歌われる歌の回答数が102、42.3%で多い（表2）。次に5以上の回答があった曲について、分類、回答数、どこで覚えたかについてみると、卒園時に歌われる「思い出のアルバム」は51の回答があり、A（11月から3月）の50%、全体でも21.2%を占めている。また、その他の卒園で歌われる歌も含めると全体の29%を占めていた（表3）。

6. 園生活が楽しかったかとその理由

「楽しかった・とても楽しかった」理由をまとめると、遊びと友達について（約55%）、先生についての良いイメージ（20.7%）、園生活の思い出（24.4%）であった。「あまり楽しくなかった・普通」の理由としてはその子なりの個別の理由が多かった。先生に関するもの、親と離れるつらさ、昼寝、途中入園について複数以上の回答があった（表4）。

表2 子どもの歌の分類（季節、用途別）（n=241）

分 類	A. 11月～3月	B. 4月～8月	C. 9月～10月	D. 生活の歌	E. その他
曲 数	25	18	3	13	35
回 答 数	102	30	8	25	76
割合（%）	42.3	12.4	3.3	10.4	31.5

表3 5以上の回答があった歌

分 類	曲 名	回 答 数	どこで覚えたか
11月～3月	思い出のアルバム	51	園、その他・不明
	一年生になったら	6	園、その他・不明
	ありがとうさようなら	5	園
	カレンダーマーチ	5	園、その他・不明
	ひなまつり	8	園、その他・不明
4月～8月	さんぽ	7	園、その他・不明
9月～10月	きのこ	5	園、その他・不明
生活の歌	おはようのうた	6	園、その他・不明
	おべんとうのうた	5	園
そ の 他	ホッ！ホッ！ホッ！	10	園・テレビ
	どんな色がすき	8	園・テレビ
	虫歯建設株式会社	7	テレビ
	ミックスジュース	5	園、テレビ、その他・不明
	人間ていいな	5	その他・不明

表4 園生活が楽しかったかとその理由（複数回答）

2. あまり楽しくなかった・3. 普通の理由	回 答 数
早生まれで皆ができることができなかった	1
先生と折り合いが悪い	1
プールがいや	1
団体行動がいや	1
昼寝がいや	2
途中入園	2
先生が怖い	1
2年間しか行かなかった	1
いじめにあっていたのに担任が味方になってくれなかった	1
園は楽しかったが親と離れるのがいや	3
行くのがめんどろ	1

4. 楽しかった理由	回 答 数
遊びや友達についての楽しさ	15
先生への良いイメージ（楽しい、優しい、仲が良い）	5
行事の思い出	3
園生活の楽しい思い出（自然にふれる、歌や絵本など）	6

5. とても楽しかった理由	回 答 数
遊びや友達についての楽しさ	30
先生への良いイメージ	12
異年齢での遊び	3
園生活の楽しい思い出（遠足、運動会、歌や踊り）	5
園の環境（園庭、遊具、自然）	3

6. その他の理由	回 答 数
覚えてない	4
あまり通えなかった	1

IV 考察

幼稚園や保育園時代に覚えた歌の数は平均で2.27であった。歌の数については、園別（幼稚園・保育園・幼稚園保育園両方）でも、園生活が楽しかったかどうかでも、差が無かった。この数字については、普段の授業の様子からはかなりの隔たりがある。調査をした学生については、筆者が担当していた3科目の授業だけでも、入学後2年生の5月までには、子どもの歌を150曲程度（手遊び歌やわらべうたを含む）歌ってきていた。その過程で、幼児期に歌った歌を思い出す可能性があ

ると考えると、2.27曲は非常に少ないものである。

このことに関しては、幼児期健忘が作用していると思われる。幼児期健忘は、幼児期の記憶が他の年代の記憶に比べて、非常に少ないことを指している。0歳から3歳までのほとんど記憶が残らない時期と、3歳から5歳までの少ないながらも記憶がある時期に分けられている。この要因については様々な説があるが、尾原・小谷津は「時間的記憶の処理能力が発達するにつれて、各時間軸は所々で接点を持つようになり、自己が更新されていく⁵⁾」として、複数の記憶処理能力を獲得した

6歳以降になって自伝的記憶が形成される可能性について述べている。本調査では幼稚園・保育園時代と時期を限定したので、はっきりとこの時期に覚えた、または歌っていたと確信できる歌の数が2.27だったのであろう。幼児期の歌について、全く思いだせないという回答も8.5%あった。

また、尾原と小谷津は、自伝的記憶の想起においては「子どもにとって重要性の高いカテゴリー（時間軸上）の出来事において最も成績が良い⁶⁾」としている。「季節や用途による歌の分類」において、11月から3月頃に歌われる歌、特に卒園に関連して歌われる歌が高い割合であることは（全体の29%）、卒園が幼稚園・保育園時代の最後を飾る大切な思い出として、記憶に残っているということではないだろうか。厳密には本調査ではその歌を歌った年齢（実際の年齢や年長・年中・年少などの学年等）については尋ねていないのだが、年長クラスの多くの子ども達が6歳となり、小学校生活にむけて年長児としての自覚が高まる11月から3月までの記憶が鮮明に残るであろうことは自然であると考ええる。

本調査では幼稚園・保育園時代と時期を限定したため、覚えている歌は平均2.27であったが、覚えた時期を限定しなければ、覚えている歌は多くなると予想できる。当然ながら、幼稚園・保育園時代だけでなく、入園前や小学校でも多くの歌を覚えたものと考えられるからである。普段の授業での学生の反応を見ると、ほとんど全員がすぐに歌える子どもの歌は40曲から50曲の間であった。また、平成12年のS幼稚園の保護者を対象とした筆者の調査では52.8%の子ども達が21曲以上歌を知っていた⁷⁾。幼稚園・保育園時代には数多くの歌を歌っているのであるが、本調査を行った20歳前後には、覚えた時期と一致する歌の記憶は多くが残っていないということである。また、本調査で5以上の回答があった14曲の内、12曲は筆者の授業で歌ったものである。

「虫歯建設株式会社」と「人間っていいな」の2曲は歌っていないが、授業で歌うことを通して、幼児期の記憶が呼び起こされた可能性もあると考える。

V まとめと今後の課題

以上の結果から、幼児期健忘の作用で幼児期に覚えた歌についての意識的な記憶は少ないと言える。調査を始めるにあたって予想した園生活の諸相と関係付けられるような歌の記憶については、多くは卒園間近のものであった。しかし、いつどこで覚えたかについての記憶はなくても、私達は多量の歌の記憶を持っているのではないだろうか。このような歌の記憶の有様から、保育者養成の場での音楽教育について考えてみる。まずは学生の中で顕在化していない歌の記憶を呼び起こすこと。次に、子どもの歌を子ども達の生活の中に適切に組み込み、子ども達の成長を支えて行ける力を学生達につけること。子ども達の思いや願いに答えるとともに、子ども達の成長への欲求にも答えるような、臨機応変な子どもの歌の用い方ができることが必要である。保育所保育指針や幼稚園教育要領にある教育のねらいと内容に、子どもの歌は総合的な関連を持つものであり、歌を歌うことは、子ども達の生きる力の発現でもあるからである。

また、どのように覚えたかなどの意識的な記憶がなくても、幼児期に覚えた多く歌によって、私達はイメージや感覚の基本を作っている可能性があるのではないだろうか。人は幼児期に覚えた歌によってどのような影響を受けているのか、今後とも探求して行きたい。

最後に本調査に協力を頂いた新潟青陵大学福祉心理学科佐藤朗子先生に感謝を申し上げたい。

注・引用文献

- 1) 渡辺優子. 家庭における幼児の歌唱についての一考察. 新潟青陵女子短期大学研究報告. 2001;31:79.
- 2) 渡辺優子. 家庭における幼児の歌唱行動. 新潟青陵大学紀要. 2008;8:232.
- 3) 國安愛子・志村洋子・清野美佐緒・神原雅之. 日本音楽教育学会課題研究C子どもの音楽—研究の動向と課題— (1). 音楽教育学. 1996;26-1:1-29.
- 4) 國安愛子・南曜子・後藤田純生・山田潤次. 日本音楽教育学会課題研究C 子どもの生活と音楽行動Ⅱ. 音楽教育学. 1997;27-1:69-99.
- 5) 尾原裕美・小谷津孝明. 幼児期健忘に関する理論と今後の展望. 1994;哲学97.慶応義塾大学三田哲学会:167.
- 6) 尾原裕美・小谷津孝明. 幼児期健忘に関する理論と今後の展望. 1994;哲学97.慶応義塾大学三田哲学会:167.
- 7) 前掲論文1). 80.